中学3年　第2回　社会（予想問題）　模範解答・解説

> **配点一覧**　知識・技能＝60点（知技1〜知技5：各2点×6＝12点）
> 思考・判断・表現＝40点（考1：2点×4／考2：2点×5／考3：2点×4／考4：2点×4／考5：3点×2）　**合計100点　小問49問**

知技1　世界恐慌と1930年代の世界　2点×6＝12点

(1)	イ	ニューヨーク株式市場の大暴落（1929年10月）。ウ・エは恐慌の結果として起きたことで、きっかけではない。
(2)	ウ	ルーズベルト。アは第一次世界大戦時、イは第二次世界大戦末期、エは南北戦争期の大統領で時期が合わない。
(3)	エ	ムッソリーニ。アはドイツ、イはソ連、ウはスペインの指導者。
(4)	ア	イは社会主義、ウは議会制民主主義、エは自由放任の説明で、いずれもファシズムとは逆の内容。
(5)	イ	満州事変（柳条湖事件がきっかけ）。アは1937年、ウは1900年、エは1939年のソ連との国境紛争。
(6)	ウ	日中戦争（盧溝橋事件がきっかけ）。アは1904年、イは1941年、エは1894年。

知技2　第二次世界大戦　2点×6＝12点

(1)	ア	1939年9月のポーランド侵攻。イは1941年で開戦後、ウは1935年で開戦前、エは太平洋戦争の始まり。
(2)	ウ	1941年12月、真珠湾攻撃とマレー半島上陸で開戦。アは第二次世界大戦、エは終戦。
(3)	ア	日ソ中立条約（1941年）。イは1940年の枢軸国の同盟、ウは日露戦争の講和条約、エは1956年。
(4)	エ	集団疎開（学童疎開）。アは大学生の出征、イは生徒・学生を工場で働かせたこと、ウは朝鮮・中国の人々を連れてきたこと。
(5)	イ	ポツダム宣言。アは1941年の米英の共同宣言、ウは日本の領土処理の方針、エは1948年で戦後の宣言。
(6)	ア	8月6日に広島、8月9日に長崎。ウ・エはそれぞれ一方が誤り。

知技3　戦後の日本の民主化　2点×6＝12点

(1)	イ	GHQ。アは1945年発足の国際組織で占領の主体ではなく、ウは戦争責任を裁いた裁判所、エは戦前の天皇の諮問機関。
(2)	ウ	財閥解体。アは農村の改革、イは1873年、エは明治政府の産業育成策。
(3)	ア	1946年11月3日公布・1947年5月3日施行。公布日が文化の日、施行日が憲法記念日。
(4)	エ	国民主権。ウの三権分立は原理ではなく権力のしくみ。
(5)	ア	教育基本法（1947年）。イは1890年に出され戦後に廃止、ウは1872年、エは1938年。
(6)	ウ	1945年の改正で満20歳以上の男女に拡大。アは1925年、イは1889〜1919年、エは2015年の改正。

中学3年　第2回　社会（予想問題）　模範解答・解説

知技4 冷戦と国際社会 2点×6＝12点

(1)	ア	「直接戦火を交えない」が冷戦の核心。イ・ウ・エはいずれも冷戦の定義に当てはまらない。
(2)	イ	NATO（1949年）。アは東側の組織、ウは1993年発足、エは1967年発足の地域協力組織。
(3)	ウ	ワルシャワ条約機構（1955年）。アは1919年の国際共産主義組織、イは東側の経済協力機構で軍事同盟ではない。
(4)	エ	キューバ危機（1962年）。アは1948年、イは1965年以降に本格化、ウは1950年で、いずれも年が合わない。
(5)	イ	アジア・アフリカ会議（バンドン会議、1955年）。アは1945年の米英ソ首脳会談、ウは先進国首脳会議、エは1921年。
(6)	ア	ベトナム戦争。1965年の北爆でアメリカの介入が本格化し、1975年に南ベトナムの首都が陥落して終わった。イは1991年、ウは1948年以降に4度起こった戦争、エは2003年で時期が合わない。

知技5 地図と地形図 2点×6＝12点

(1)	ア	縮尺＝実際の距離を縮めた割合。イは標高の説明。
(2)	イ	等高線は同じ標高を結んだ線。アは等温線、ウは等雨量線。
(3)	ウ	「文」は小・中学校。高校は「文」を丸で囲む。
(4)	イ	「卍」は寺院。神社は鳥居の形の記号。
(5)	エ	方位記号がないときは、地図の上が北。
(6)	ア	水準点は標高の基準。三角点は位置（緯度・経度）をはかる基準で役割が異なる。

思考・判断・表現（40点）の解答・解説

考1 地形図の読み取り（資料1） 2点×4＝8点

(1)	イ	6cm×25,000＝150,000cm＝**1,500m**。アは縮尺をかけ忘れ、エは単位をcm→mに直し忘れた誤り。
(2)	ア	資料1では、東（Q側）の等高線が密に重なり、西（P側）は間隔が広い。等高線の間隔がせまいほど同じ距離で標高差が大きく、傾斜が急になる。
(3)	ウ	最も内側の等高線が400mで、山頂はその内側にある。次の等高線（500m）は描かれていないので、標高は400m以上500m未満。
(4)	ウ	たて2cm→500m、よこ4cm→1,000m。500×1,000＝**500,000m^2**。面積は縮尺を2回かけることに注意する。

中学3年　第2回　社会（予想問題）　模範解答・解説

考2 世界恐慌前後の鉱工業生産指数（資料2・3）　2点×5＝10点

(1)	ウ	Dだけが一度も下がらず1935年に250に達している。社会主義国のソ連。ア・イ・エはいずれも1932年前後に大きく落ちこんでおり、Dには当てはまらない。
(2)	イ	ソ連は五か年計画による計画経済をとり、資本主義の世界市場と切りはなされていた。アはイギリス、ウは国際連盟に加盟していた時期もあり理由にならない、エは五か年計画で重工業を急速に発展させたので誤り。
(3)	エ	ニューディール政策（ルーズベルト）。アはイギリス・フランス、イはソ連、ウは明治政府の政策。
(4)	ア	ブロック経済。イはアメリカ、ウは関税を下げる政策で逆、エは16〜18世紀の経済思想。
(5)	エ	Bは1935年に96で、1929年の水準（100）のほぼ9割に回復しているので「半分に届いていない」は誤り。アは1932年に54で最低（正）、イは100→250で一貫して上昇（正）、ウは106で100を上回る（正）。

参考　Aはアメリカ（1932年に54まで落ちこみ、最も打撃が大きかった）、Bはドイツ（1933年以降に急回復）、Cはイギリス（落ちこみが小さい）、Dはソ連。

考3 5つの道県の統計（資料4）　2点×4＝8点

(1)	ア	北海道。面積83,424km^{2}と群を抜いて広く、農業産出額も12,667億円で最多。
(2)	ウ	愛知県。製造品出荷額478,946億円は他の4道県の合計を大きく上回り、自動車工業を中心とする中京工業地帯を反映している。
(3)	B	B＝1,404万人÷2,194km^2＝約6,400人／km^2。次に高いCでも754万÷5,173＝約1,460人／km^{2}で、Bが明らかに最も高い。
(4)	ウ	Eは2,281km^{2}だがBは2,194km^{2}でBのほうが小さいため誤り。ア（12,667億円で最多）、イ（20,247は61,336の半分30,668未満）、エ（229億円で最少）はいずれも正しい。

考4 戦後の日本の年表（資料5）　2点×4＝8点

(1)	イ	サンフランシスコ平和条約（1951年）。アは同じ日に結ばれたが独立回復の条約ではなく、ウは1919年、エは1895年。
(2)	ウ	国際連合（1956年加盟）。ソ連との国交回復で、ソ連の拒否権がなくなったため加盟できた。アは1946年に解散、イは日本は加盟していない、エは日本と無関係。
(3)	ア	1955〜73年が高度経済成長期。イは1973年以降、ウは1980年代後半、エは終戦直後の様子で時期が合わない。
(4)	エ	ベルリンの壁が取りこわされたのは1989年で年表の期間外。テレビ放送の開始1953年、東海道新幹線の開通1964年、日本万国博覧会1970年はいずれも期間内。

中学3年　第2回　社会（予想問題）　模範解答・解説

考5　農地改革と朝鮮特需　3点×2＝6点

(1)	ア	農地改革。小作人の多くが自作農となり、農村を支配していた地主の力が弱まった。イ・ウ・エはいずれも実際と逆、または事実に反する。
(2)	ア	特需景気（朝鮮特需）。アメリカ軍からの大量の物資の注文で好景気となり、日本の経済の復興が早まった。イは日本は参戦していないので誤り、ウ・エは事実に反する。

落としやすいポイント（復習チェック）

① **満州事変（1931年）と日中戦争（1937年）を混同する**
きっかけは、満州事変＝**柳条湖事件**、日中戦争＝**盧溝橋事件**。年号とセットで覚える。

② **第二次世界大戦（1939年〜）と太平洋戦争（1941年〜）の開始を区別していない**
ドイツのポーランド侵攻＝第二次世界大戦、日本の真珠湾攻撃＝太平洋戦争。問われているのがどちらかを必ず確認する。

③ **縮尺の計算で「面積」のときに縮尺を1回しかかけない**
距離は縮尺を**1回**、面積は**2回**かける（たて・よこそれぞれを実際の長さに直してからかける）。考1(4)はここで差がつく。

④ **等高線の「間隔」と傾斜の関係が逆になる**
間隔が**せまい＝急、広い＝ゆるやか**。同じ標高差を進む距離が短いほど急だ、と理屈で覚える。

⑤ **恐慌対策を国ごとに整理していない**
アメリカ＝**ニューディール政策**（公共事業）、イギリス・フランス＝**ブロック経済**（植民地＋高関税）、ソ連＝**五か年計画**（影響を受けず）、ドイツ・イタリア・日本＝**ファシズム・侵略**。

⑥ **統計表を「大きい数字」だけで判断する**
人口密度は必ず**人口÷面積**で計算し直す。愛知県は人口が多いが、面積も東京都の2倍以上あるので密度は東京都に及ばない。

⑦ **サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約を取り違える**
同じ1951年に結ばれたが、**独立回復**＝平和条約、**米軍の駐留継続**＝安保条約。目的で区別する。

⑧ **「誤っているものを選びなさい」で正しいものを選んでしまう**
この回では考2(5)・考3(4)・考4(4)の3問が「誤っているもの」を問う形式。設問文の**太字**に印をつけてから選択肢を読む習慣をつける。

知識・技能 60点　＋　思考・判断・表現 40点　＝　合計 100点（小問49問）